



喜多埜

歯神社例祭のご案内

来月四日は当神社の末社である歯神社の例祭日です。この歯神社は小さなホコラのようなお社で、御本社と御旅所のちょうど中間である大阪市北区角田町二番八号の地に御鎮座されておられます。御由緒は江戸時代に、梅田一帯までもが水没しそうな淀川の氾濫があった時、この歯神社の御神体である巨石がその水の流れを歯止めし、水没から梅田の街を守った事から歯止めの神さまとして慕われ、音韻が通じるのを以って歯の守り神さま「歯神社」と呼ばれ、今では全国の歯に悩む方々から崇敬されるお社として知られています。

当日は午前十一時より歯神社前にて祭典があり、終了後(十一時半頃)に歯ブラシの授与がございます。尚、歯ブラシは数に限りが御座いますので授与をご希望の方はお早めにお越し下さい。場所はユニクロ梅田店入口横を指して頂ければわかりやすいです。

歯ブラシ無料授与に

関する大事なお知らせ

今年の歯ブラシ無料授与は、年々増える参拝者に伴い、歯ブラシのご用意にも限りが見えて参り、かかる時勢の流れも鑑み、無料授与は先着一百組までとさせて頂きます。

それ以降の方で、どうしても歯ブラシの授与をご希望の方には、初穂料をお納め頂く形の授与品として別途歯ブラシをご用意致しております。こちらも併せてどうぞ。

梅田の牛の藪入り

梅田に牛。今では想像も出来ませんが、江戸時代頃の梅田周辺は、街道筋にあたる茶屋町付近以外は田畑が広がり、出来たばかりの大阪駅(梅田すてんしよ)がポツンとあるような風景であったそうです。

そんな梅田の風物詩として、陰暦の五月五日に、梅田堤と呼ばれたあたり、今の国鉄跡地である大深町あたりで、牛を季節の草花や赤や黄色の木綿で飾り立て、牛の好きなようにさせ、牛は萌え出たばかりの若草を思う存分食べて遊ばせるという行事がありました。

これは、普段苦勞をかける牛の勞をねぎらう意味と、五月五日は端午の節句でもあり、子供の天然痘除けのマジナイの一種でもあったと、『浪華百事談』には記されています。

お盆の頃に郷里に帰って羽を伸ばす事を「藪入り」といいますが、まさにこれは「牛の藪入り」といってべき行事でした。

明治以降は次第に都市化にともない行事自体がなくなっていくたようですが、いよいよ国鉄跡地の再開発が始まるこの時期に、そんな古き時代の梅田の風景を思う時、元々大深町近くに鎮座していたという、当神社末社の玉姫稻荷神社の例祭日が五月五日という事に何かしら縁を感じます。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ボーダフォン
ez web 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

